

ICAS2011 参加へのお誘い



寺 部 茂

来年5月22～26日、国立京都国際会館においてIUPAC2011国際分析科学会議(ICAS2011)が開催されます。ICASは本会が10年ごとに主催し国内において開催しています。2006年には国外で初めてモスクワにおいて開催されましたが、本会主催としては3回目を迎えます。前2回が東京地区での開催でしたが、今回は5月下旬の気候のよい時節に京都での開催となります。日本分析化学会創立60周年の記念すべき年に分析科学全般の進歩に関する国際会議を開催することは大変意義深いことです。2007年度理事会において組織委員長に任命され、主として近畿支部の会員の皆様のご協力をいただき準備を進めています。会員の皆様にはファーストサーキュラーやホームページ<http://www.lhweb.jp/knt-test/icas2011/index.html>を通じて会議の概要をお知らせしておりますが、講演募集を今月号の「お知らせ」欄に掲載しております。多数の皆様のご参加をお願い申し上げます。

最近では会員各自が国際会議に参加したり、我が国で国際会議が開催されたりする機会も増えていますが、本会議のように分析科学全般を対象とした国際会議はまれです。今回は(社)日本分析機器工業会に共催団体に加わっていただき、我が国の分析科学に関する学術・技術の現状及び展望を世界に向けて情報発信するよい機会にしたいと思います。お隣中国はめざましい経済発展に伴い、科学技術分野でも急速に存在感を増しています。中国のみならず、東南アジア諸国についても同じことが言えます。我が国の経済がこれらの国々と深くかかわりを持っているように、教育・研究分野でもお互いの情報交換の機会が増えるのは自然の成り行きです。一方、欧米から見た我が国の学術・技術はほぼ同一レベルに達したか、分野によっては最前線にいると認識されていると思います。アジアの研究者には地理的に近く、欧米の研究者には多数のアジア研究者と情報交換するよい機会を提供できると思います。我が国のみならず世界の経済は厳しい状況にあります。ICAS2011の成功に向けて会員皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

最先端科学技術を先導するために計測分析技術・機器開発の重要性が認められ2004年度には計測分析技術関係の多数のプロジェクトが発足しました。それらの成果が徐々に現れ、学術の進歩に貢献したり実用化に向かったりしているものも多数あります。また、地球環境問題、人類の健康と安全の問題などの解決のためにも分析科学の貢献が求められ、会員多数の皆様が熱心に問題解決に努力していることと思います。このような時代に本会員の研究成果を世界に向けて発信すると同時に、世界の分析科学者の最先端の研究成果に触れ、議論を通じてお互いの交流を深めることは国際交流のよい機会です。2011年は国際化学年でもあり、一般社会とのつながりも求められております。その意味で22日(日)に公開講座を計画しております。

末筆になりましたが、ICAS2011が例年の分析化学討論会の開催時期と重なることから、2011年には担当の九州支部のご配慮により、分析化学討論会は1年繰り延べていただくことになりました。その意味でも会員多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。

〔Shigeru TERABE, 兵庫県立大学名誉教授, ICAS2011 組織委員長〕